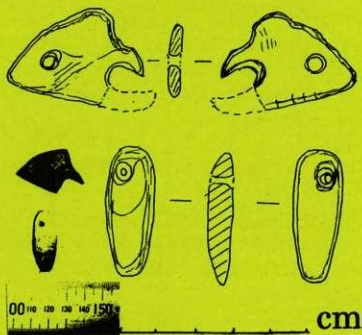


茨城県行方郡玉造町

若海貝塚発掘調査報告書



2003年3月

玉造町遺跡調査会
玉造町教育委員会

例 言

- 1 本報告書は、茨城県行方郡玉造町若海457番地外に位置する若海貝塚の取り付け道路部分の調査報告書である。
- 2 本調査は、平成10年に町道57号線のバイパス工事によって調査した道路の取り付け道路部分の調査で、面積約70㎡である。
- 3 本調査は鹿行文化研究所の汀 安衛が担当した。調査期間は平成14年5月21日～29日までの延べ6日間である。
本報告文、写真、貝分類は汀安衛、図面、魚骨類は西田和子、貝類整理は徳利初代、横田泰隆が行ない汀が総括した。
- 4 調査部分は、以前から農道として使用されており下部に、昭和55年集落センターに給水の為水道管が埋設されていた。その後今回と調査区内で2回の攪乱を受けた。
- 5 整理は6月から10月まで行った。

6 調査会組織

会 長	大 崎 博 之	(玉造町教育委員会教育長)
副会長	風 間 亨 夫	(玉造町文化財保護審議会会長)
理 事	宮 崎 幸 男	(玉造町文化財保護審議会副会長)
	鈴 木 亮 然	(玉造町文化財保護審議会委員)
	八 木 操	(玉造町文化財保護審議会委員)
	笹 目 吉 久	(玉造町文化財保護審議会委員)
	田 宮 み つ	(玉造町文化財保護審議会委員)
	小 沼 政 雄	(玉造町文化財保護審議会委員)
	堀 田 好 男	(玉造町文化財保護審議会委員)
	汀 安 衛	(鹿行文化財研究所長、調査主任)
監 事	田 山 信 男	(玉造町文化財保護審議会委員)
	大 場 浩 一	(玉造町文化財保護審議会委員)
事務局	重 田 順 爾	(玉造町教育委員会生涯学習課長)
	中 田 美 代 子	(玉造町教育委員会生涯学習課社会教育係長)
	森 作 知 代	(玉造町教育委員会生涯学習課社会教育主事)
	磯 山 智 也	(玉造町教育委員会生涯学習課主事)

- 7 本調査に際し、多くの方々の協力を受けた。記して感謝の意を表したい。

茨城県教育庁文化課、茨城県立歴史館齊藤弘道氏、鹿行教育事務所、玉造町教育委員会、玉造町建設課、玉造町中央公民館、玉造町文化財顕彰会、

高埜栄治、池島正夫、森作保繁

調査協力者 横田泰隆、菅谷益尚、徳利初代、西田和子、原田森二、原田一虎、田山松夫、原田みさ、齋藤とく、齋藤美根子

凡 例

- 1 本報告書の縮尺は図中に表示したが、原則として1/30、1/10とした。水糸レベルは図中に表示した。

目 次

例 言	
凡 例	
目 次	
挿 図 目 次	
図 版 目 次	
I 遺跡の位置と史的環境	1
II 調査に至る経過	
1 調査日誌	3
III 調査の概要	
1 現状と調査方法	3
2 貝層の層序と埋積	3
IV 遺 物	
1 縄文式土器	6
2 骨 角 器	11
3 貝 器	11
4 土 抗	11
5 脊椎動物遺体	11
V 総 括	17

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置と環境	2
第2図 貝塚の現況図	5
第3図 調査区実測図	6
第4図 土坑、貝層測量図	8
第5図 3・4層出土土器、実測拓影図	9
第6図 その他X層出土土器	10

図 版 目 次

PL 1 調査前の状態・攪乱部分の貝層整理・東側のカットされた状態・新たな水道管敷管敷設のトレンチの現状・調査中の遺存部貝層は極一部のみ（下左右）	18
PL 2 南側の台地面法面は北側に自然地形が傾斜・北側から2段に水道管敷設トレンチが存在小さな土坑が見られた。完掘状態・3層の純貝層ハマグリが多量・SK1とSK2抜根状	19
PL 3 出土遺物土器・貝類・魚骨等	20

I 遺跡の位置と史的環境 (第1図)

本貝塚は、茨城県行方郡玉造町若海457番地他に所在する。貝塚の所在する玉造町は茨城県の中央部やや東寄りに位置し西側は霞ヶ浦（西浦）に面し南側は麻生町、東側は台地中央部で北浦、銚田両町に接し北側は、鎌田川を挟んで東茨城郡小川町と堺を接する。町域は全体的に台形状を呈する。

貝塚の占地する梶無川周辺には縄文時代から近世まで多くの遺跡が確認されている。貝塚では西岸のオチャク内貝塚、古墳では捻木古墳群、城館址では芹沢城跡、山中館跡、石神館跡、玉造城跡等が残され梶無川流域は古代から生活環境に恵まれた地域であることが窺われる。

貝塚は、梶無川の中流域、東岸の支谷に囲まれた標高30m程の台地斜面部に占地していた。中心になる貝層は台地の南側の凹部、東側の斜面部、平坦部の地点貝塚から構成されている。その中でも貝塚の主体は南側と東側の斜面部であり、特に東側の貝塚が最大の規模をもつ。

本貝塚は古くから著名な遺跡で多くの人々の踏査が見られ、報文がある。中でも1952年に慶応義塾高等学校史学部の調査がある。その後は大きな調査は無い。平成10年に町道のバイパス建設のため、用地部分のみ鹿行文化研究所が調査を行なった。(注1) 貝塚の東端にあたる。

注1. 平成10年に道路部分の調査を行いその時、取付道路については調査範囲になかったため未調査であった。調査時点ではかなりの攪乱が入り貝層の生き部分は少なかった。

II 調査に至る経過

玉造町は、主要基幹道路である国道355号線と行方台地を縦断する主要地方道水戸神栖線354号と県道鹿田玉造線と主要地方道水戸神栖線を結ぶ、重要生活路線として位置づけられ、交通量も増加し住民要求も高いことから道路改良工事が計画された。今回の若海貝塚の調査は、この取り付け道路を整備する町道改良舗装工事に伴うものであった。

しかし、遺憾なことに工事が先行した事例で、取り付け道路工事中貝層が露呈したことにより、平成14年5月4日に発見者より通報を受け、玉造町生涯学習課職員がその事実を知り、急遽、埋蔵文化財の緊急発掘を実施するという残念な経過をたどった。

玉造町教育委員会は、直ちに玉造町建設課と協議し、茨城県教育庁文化課の指導の下、記録保存の措置を講ずることとなった。

なお、本調査の期間中、この取り付け道路の工事は中断され、工期にも若干の影響を来す結果となった。

1 調査日誌

- 5月21日 現状の写真、図面作成、テント設営、道具運搬し遺存部の貝層確認。
- 5月22日 攪乱を受けた貝層ブロックの整理。1～4 Xまでの名称を附する。
以前の水道管敷設時の攪乱層をXとして取り上げ生き層を確認。
- 5月23日 西側の道路法面の土層及び貝層作図。1 X、2 Xの整理。
上部は貝層の端部で混土貝層、薄い。
- 5月24日 西側、貝層の生きた部分の調査。1、2層は僅かである。
- 5月25日 3層、4層の調査、遺物は皆無に近い。5、6層の調査、遺構なし。
ブロック状の攪乱貝ブロック整理終了。
- 5月28日 東側法面の角度整形、調査整理。具体的な層は把握出来ない為、X層として取り上げた。道路床面部より下げて破碎と消滅した白色粒混入層を調査しローム層まで下げて遺構の有無を確認。地山はかなりの傾斜を示す。
- 5月29日 北側端の一部をローム面まで確認し、調査。東側の法面に剥き出しの土器の取り上げ。20片。何れも少破片。貝を詰めた土囊袋を運搬し、午後5時に調査終了とする。都合7日間であった。

III 調査の概要 (第2、3図)

調査は、既に調査日誌で述べたとおり攪乱部分が大半であった。第一に南側の若海農村集落センター建設時(昭和55年)に水道管理設の為大きく攪乱を受けていた。今回その水道管を再度敷設するため幅3mの所に更にトレンチ状に掘削した為、貝層の遺存部は極一部であった。大半は、二度の掘削で元位置を留める貝層は僅かであった。(第2図)

1 現状と調査方法

調査の大部分は、攪乱部の確認取り除きと整理、持ち上げられたブロック状の貝塊の整理が主体を占めた。土器はかなり盗難に遭ったとの話で調査初日にはかなり土器類の抜き取り跡が観察された。溶解塊となった5層、6層はトレンチ状に確認し調査を進めた。(第3図)その後、全掘しローム層の地山を確認し道路部分の調査を終了とした。

新道と取り付け道路とはかなりの高低差があるため、また新道部分は北側に張り出している為、貝層は皆無に近く北側に行くほど西側に入り込む為貝層の遺存率は良かった。遺物、土器は3層に10片ほどの出上を見た。時期は阿玉台式後半から加曾利EⅡ式が見られた。これらから本貝層の埋積した時期が推察される。

2 貝層の層序と埋積

貝層、層序は西側の法面では8層に分類出来た。表面は畑地のため耕作土で20cm前後の厚さが見られた。

1層は耕作土の下、中央部に見られ厚さ10cmから30cm程を測り貝類の遺存状態はやや悪い。ハマグリが主体層であり南北方向からの流れが見られる混土貝層である。土器類は皆無に近く遺存部も極僅かであった。層序から以前は畑の窪地と推察される。

2層は1層南側に見られた混土貝層である北側に傾斜を示す。量的にも極少量であり貝類の遺存状態は悪い。本層も相当以前に畑地面の可能性が推察される。

3層は南側部分から始まる黒色の混土層で北側に地山の流れに沿った自然傾斜を示す。貝は破碎、消滅気味のものが見られ遺存状態は悪い。5層との間に少量の層が見られる。

4層は中央やや北寄りに見られたブロック状の純貝層で厚さ20cm、長さ90cm程の投げ込みの感じの埋積を示す。ハマグリ主体の貝層である。

5層は3層の北側に見られた混貝層で破碎の多い層で貝自体小型のハマグリが多く黒褐色土が混入している。厚みは、10~20cm前後を測る。層自体は南側に傾斜を示すが貝層自体は上からの投げ込み的である。

6層は貝類が溶けて白ゴマ的な層で完形貝類は、皆無に近い。土器も皆無であった。締まりはやや有りローム粒子の混入が見られる。

7層は暗褐色層で白ゴマ的な層が少量混入する。完形の貝は皆無、土器片も皆無であった。この層の下は黄褐色から橙色に近い地山層である。

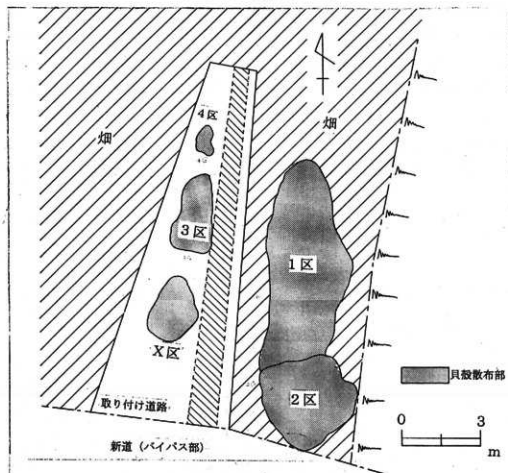
これらの層は全体的に東側に30度前後の傾斜角度を示す。部分的には調査区中央部に南北から傾斜を示している。

北側の貝層はやや複雑ではあるが基本的には西側の流れが続く。

1層は、ほぼ南北に埋積した混貝層であるが本層は生きていた。南側では10cm前後、中央部で50cm程の厚さを測る。層中3層の純貝層、灰・暗褐色土層④層も有り本層の埋没過程を物語る。

2層は混土貝層で中央部北よりに20cm程の厚みが見られる。本層は断片的に観察されている。少量ながら貝類の遺存状態は良い。ハマグリ主体。暗褐色層。

3層は、純貝層で北側に少ブロックが三箇所、中央部に二箇所、南側に一箇所それぞれ認められ何れも貝種はハマグリ主体である。貝殻の埋積方向は(矢印方向)斜め、上、横等複雑な埋積を示しかなりブロック的な状態が観察された。



第2図 調査前の現状・貝殻散布状態

4層は、混土貝層で3層の下に最高30cm程の厚さをもつ、全体的には薄い層で貝の遺存状態は良い。本層でもハマグリが主体的な貝である。

5層は、南北方向の全体に認められ北側では50cm程の厚さをもつが貝類の遺存状態は悪く多数の貝は白ゴマ状になり完形の貝類は少ない。本層でもハマグリが主体を占める。

6層は溶解した貝が白ゴマ状に混在する暗褐色の混土層であった。形骸を留める貝は極少量である。

7層は、暗濁土が多い層で6層よりはやや明るくなりロームが混入している。溶解した貝粒が少量混入する。形骸を留める貝は皆無。

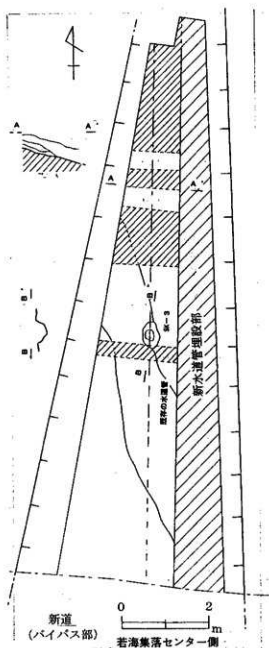
8層は、褐色層で少量の溶解した白粒の混入が見られるが、形骸を留める貝は皆無であり地形は、南側に上がり気味である。

IV 遺物 (第5図、第6図)

本貝塚からは縄文式土器、骨角器、貝器、脊椎動物遺体等が検出された。以下それぞれに分類し報告する。

1 縄文式土器

土器は貝層中に混入し検出された。前述したように貝層が確認された時には完形品に近い土器も出土した、と言われ、かなりの土器の抜き取り跡が観察された。図示したものは3層出土の1~4と4層出土の5~8と6図の、所謂攪乱ブロック出土の1~13がある。



第3図 調査区実測図

口縁部が平縁でやや肥厚し丸みをもつ1は、半戴竹管押し引きを口縁部、及び直下に2条施文する。直立気味の胴部には粗いLRの地文が施されている。色調は暗褐色で胎土に雲母、長石を含む。2は口縁頂部に小さく扇状形態をもち窓枠状部分には半戴竹管による押し引きが施され口縁部は磨削し内側に稜を持ち胎土に金雲母を含む。何れも中峠式。3は扇状の突起部分で隆帯隆帯にそって2条の沈線を施し中央に有筋沈線が1条見られ、胎土に金雲母を含む阿玉台Ⅳ式。4からは4層出土、深鉢形土器胴部下半及び底部で太い隆帯が添付される。隆帯部分には弱い押圧が加えられ地文に単節のRLの縄が全面に施文される。胎土には金雲母を多量に含み内側は黒褐色を呈している。

5は4層出土土器で、鶏冠状の扇状突起をもつ4、胴部破片で四本単位の押し引きを持つ6、円筒形で深鉢形の器形の7がある。5は隆帯の内側には半戴竹管押し引き文が施文され胎土に金雲母を含む阿玉台Ⅲ式土器。7は半円状、U字状の隆帯を貼付し半戴竹管押し引きを施文する。口縁部にも幅広い一列の半戴竹管列が施文され下端に角押し状の沈線が1条、更に四等分して施されると推察される二本単位の沈線を短く垂下させる。

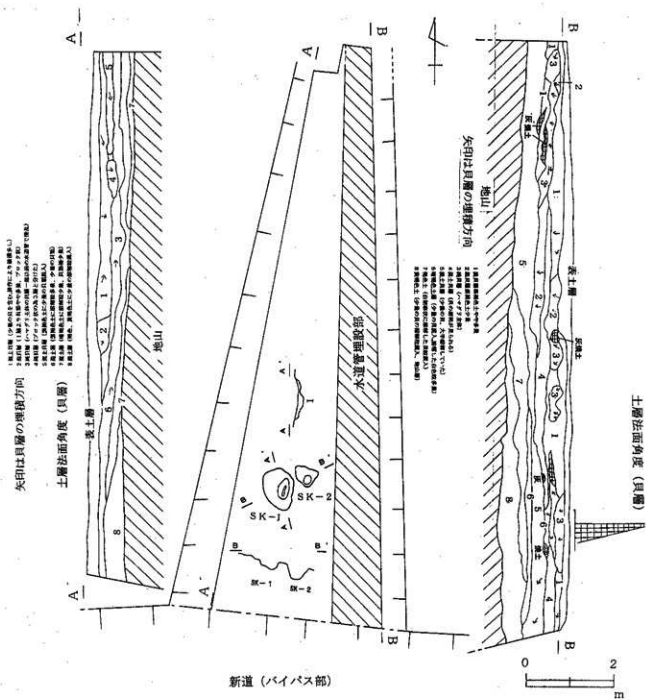
外面は黒褐色の本土器は大木8b系の色の強い土器。8は小型の深鉢形土器で口縁部は弱く外反し器形は円筒形である。口縁部に指頭に依る押圧が加えられている。内側は黒褐色で胎土に金雲母を含む。

第6図、7図は攪乱層からの出土遺物で明確な層序は把握出来ない。出土貝層の状態からは3乃至4層の混貝、純貝層からの出土が推察される。図示したのは貝層の位置関係とは別である。

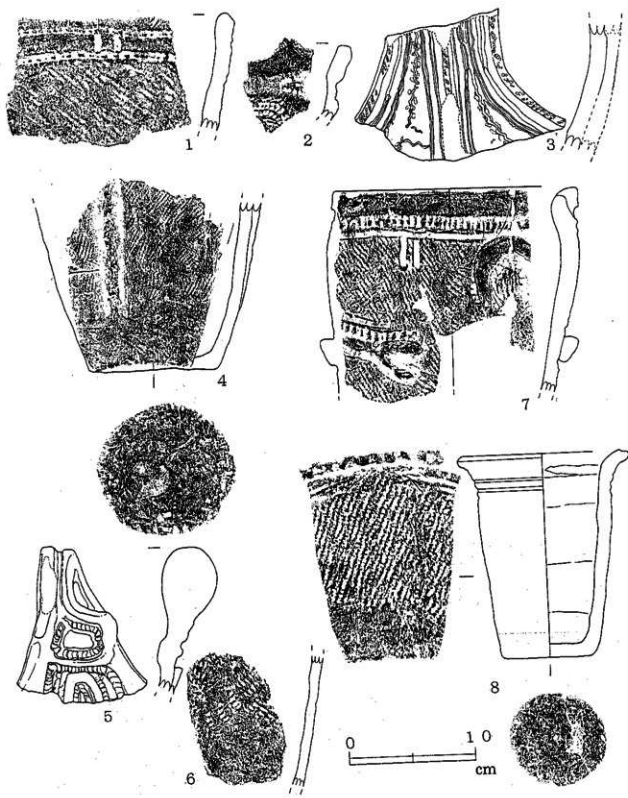
1は、大型の浅鉢で内側に強い稜、口唇部は「つば状」に大きく外側に折り返し外反する。胎土に金雲母を多量に含む阿玉台Ⅲ式土器。2は山形の突起状、3は扇状把手で又太い隆帯には指頭押圧が加えられている。隆帯上部には沈線が1条巡る。胎土には共に多量の金雲母を含む加曾利E1式。

4～10は隆帯区画で内側に横位、縦の沈線を施文する一群で4、5は隆帯区画でRLの単節の縄が施文される。区画内には沈線や刺突文が施文される加曾利E1古式。6、7、8も隆帯区画であるが区画内は縦位の沈線が施文、7は磨削された口縁部との間に波状文がられる暗褐色の土器で胎土に雲母を含まない加曾利E1式。9は大型の3孔を持つ土器で隆帯の中に沈線が施文、突起部は円形で孔を持つ。頸部下は単節の縄文が施文される。10は、口縁部がキャリバー状器形、隆帯を貼付で区画され地文の縄が見られる。胎土に砂を多く含む土器。加曾利EⅡ式。11は阿玉台式の浅鉢土器形土器で無紋、内側に稜をもち口縁部が肥厚する。12、13は阿玉台式の底部でやや角張る器形を持つ。14は口縁部の肥厚する部分に単節のRLの縄を施文する中峠式土器。

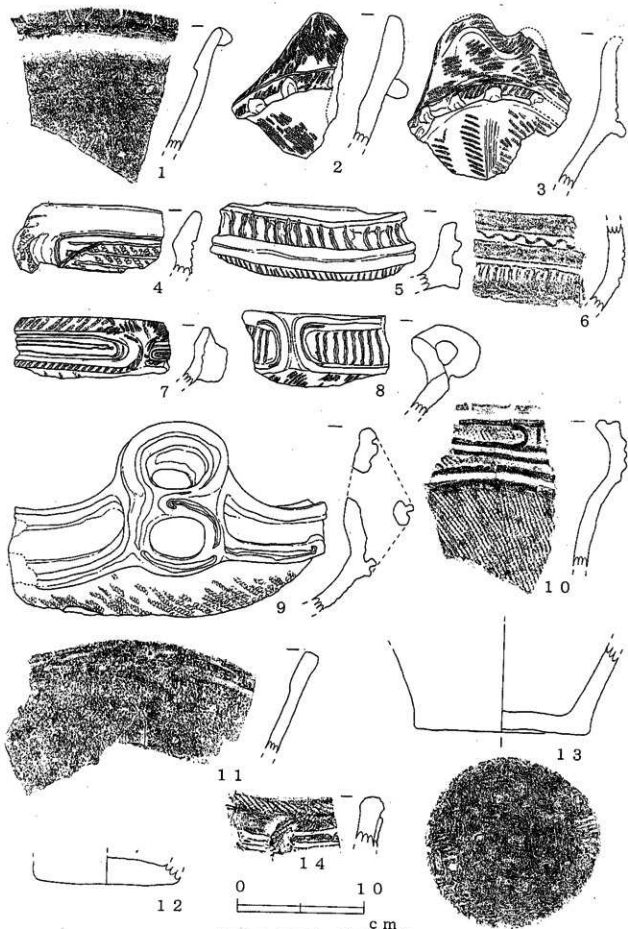
その他少破片が200点程検出された。何れも図示した土器の範囲を越える土器は認められなかった。総じて阿玉台式から加曾利EⅡ式の範囲において形成された貝塚と考えられる。



第4図 土坑、貝層実測図



第5图 3·4层出土土器、实测拓影图



第6図 その他X層出土土器

2 骨角器

本類に分類出来るものは検出できなかった。

3 貝器

3点程の貝輪状のカンシ加工品が認められる。

4 土坑

根跡状とも思われるものであり、貝層の推積以前のものかどうかは攪乱のため断定出来なかった。

本貝層の下部から抜根状の掘り方の土坑が見られた。掘り込みは三角形状と楕円状で掘り込みは浅く、遺物は皆無であった。

5 脊椎動物遺体

1 魚類

3層においてはほぼ前回の調査の魚類が確認されたが何れも部分的であった。クロダイ、スズキ、マハゼ等に上顎骨が見られるが他は歯骨、鰭棘、椎骨、歯板、尾棘、脊椎骨、うなぎの咽頭骨等が見られたが何れも数量的には少ない。これらは層序、及び貝層の厚さ等に比例していると察する。

種類は、クロダイ属、タイ科、エイ目、スズキ属、ハゼ科、マハゼ、コチ、アジ亜科、サバ属、フグ科、サツパ、コノシロ、ウナギ、コイ等が確認された。これは4層においても同様な傾向であった。

2 哺乳類

人は4層から第二大臼歯〔上〕が確認されたほか、1層から細片が出土している。

獣骨はシカ、イノシシ、アカネズミ属の下顎が出土しているが、各骨片も細片化し部位の特定は不可能に近かった。数量的にも僅かであった。

3 鳥類

ガンカモ科、キジ等が見られた。数量的には僅かである。

4 爬虫類

蛇の椎骨が7片ほど検出されている。

その他、骨片として相当数あったが表に示すように細片で固定不可能〔鑑定能力不足〕によるものもあるが、総じて遺存状態は悪いに一因した。

表紙に図示した魚状石製品は滑石製品で以前は、ペンダント状に使用したと思われる削り込みがある。長さ3.7cm厚さ3mmの熱帯魚的な形態を持つ加工品である。ペンダント的であり魚形石製品としては無理とも思われるが近県にその類例が見当たらない。現状では一応前述の表記としたい。2X出上層水晶製の加工品も2Xブロック部分から出土している。孔部が中心よりかなり偏りあけられている。穿孔技術、加工もやや粗い。長さ3.5cm、厚さ6mmを測る。

第1表 遺体一覧表 (1層)

種 類	頭蓋骨	下顎骨	脊椎骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨	尺骨	中手骨	寛骨	大腿骨	頸骨	腓骨	距骨	踵骨	中足骨	指骨	その他	
	car	md	vert rib	scap	hum	rad	ul	mc	cox	fe	tib	fib	ta	ca	mt	dig		pad
シカ	1																	鱗片 3
獣骨鱗片	1																	骨(鱗片)13 鱗片 1
人間	1																	鱗片 1
鳥類	1																	鱗片 2
ヘビ	1																	鱗片 1

種 類	頭 骨		内 臓 骨										脊椎骨		肩 帯				その他		
	skull	skull	visceral skeleton										vertebra	vertebra	shoulder girdle						
	鼻骨	上後頭骨	前上顎骨	上顎骨	口蓋骨	齒骨	角骨	方骨	舌顎骨	前總基骨	上總基骨	鰓下蓋骨	腹椎体	尾椎体	後頸項骨	上頸項骨	擬頸骨	肩甲骨			
	vo	supo	preo	max	pal	den	an	qu	hyo	preo	ope	inop	sub	inop	abd	tem	cl	cl	sc		
ウナギ	1																			鱗片 2	
ハゼ科	1					1															鱗片 36
その他	1																				鱗片 2
	1																				ウロコ 2

遺体一覧表 (2層)

種 類	頭蓋骨	下顎骨	脊椎骨	肩甲骨	上腕骨	橈骨	尺骨	中手骨	寛骨	大腿骨	頸骨	腓骨	距骨	踵骨	中足骨	指骨	その他	
	car	md	vert rib	scap	hum	rad	ul	mc	cox	fe	tib	fib	ta	ca	mt	dig		pad
シカ	1																	鱗片 5
イノシシ	1																	鱗片 2
小動物	1																	鱗片 1
鳥類	1																	鱗片 2

種 類	頭 骨		内 臓 骨										脊椎骨		肩 帯				その他		
	skull	skull	visceral skeleton										vertebra	vertebra	shoulder girdle						
	鼻骨	上後頭骨	前上顎骨	上顎骨	口蓋骨	齒骨	角骨	方骨	舌顎骨	前總基骨	上總基骨	鰓下蓋骨	腹椎体	尾椎体	後頸項骨	上頸項骨	擬頸骨	肩甲骨			
	vo	supo	preo	max	pal	den	an	qu	hyo	preo	ope	inop	sub	inop	abd	tem	cl	cl	sc		
タイ科	1					1														鱗片 5	
エイ目	1																				尾鱗 1 産卵 1 鱗片 21
魚骨	1																				ウロコ 1
	1																				鱗片 10

第2表 遺体一覧表 (3層)

種 類	頭蓋骨 car	下顎骨 md	脊椎骨 vert rib	肩甲骨 scap pad	上腕骨 hum pad	橈骨 rad pad	尺骨 ul pad	中手骨 mc pad	寛骨 cox pad	大腿骨 fe pad	脛骨 tib pad	腓骨 fib pad	距骨 ta	踵骨 ca	中足骨 mt pad	指骨 dig pad	その他
シカ	1																細片 9
獣骨	1																細片 75
ガンカモ科	1		1														
キジ	1							1									
その他	1																細片 31
ヘビ	1																椎骨 2

種 類	頭 骨 skull		内 臓 骨 visceral skeleton										脊椎骨 vertebra		肩 胛 骨 shoulder girdle				その他		
	歯骨 va	上顎骨 supro tro	前上顎骨 premax	上顎骨 max	LI 蓋骨 pal	歯骨 den	角骨 an	方骨 qu	舌骨 hyo	前肋骨 preo	上肋骨 ope	鋸歯骨 imop	腹椎 sub inop	尾椎 abd	後肋骨 tem	上腕骨 ci	腕骨 ci	肩甲骨 sc			
クロダイ属	1			3																	
タイ科	1			3		2															歯 51 第1歯槽 4 歯槽 57
エイ目	1																				歯槽 53 歯槽 1 歯槽 1
スズキ属	1		5	1	2	2															
ハゼ科	1						4														
マハゼ	1						3														
コナ	1			1								1									腹肋骨 (R) 1 (L) 1
ニシン科	1						2														椎骨 123
アジ属科	1																				椎骨 78
サバ属	1																				椎骨 4
フグ科	1																				椎骨 1
サッパ	1																				第1背椎骨 1
コノシロ	1																				第1背椎骨 1
ウナギ	1																				椎骨 70
コイ	1																				椎頭骨 12 椎骨 1
鰻骨	1																				835
魚骨	1																				2499

第3表 遺体一覽表 (4層)

種 類	頭蓋骨 car	下顎骨 md	脊椎骨 vert rib	肩甲骨 scap pad	上腕骨 hum pad	腕骨 rad pad	尺骨 ul pad	中手骨 mc pad	寛骨 cox pad	大腿骨 fe pad	類骨 tib pad	腓骨 fib pad	距骨 ta	踵骨 ca	中足骨 mt pad	指骨 dg pad	その他
シカ	1																胸片 16 歯 3
獣骨	1																胸片 285
鹿	1																13
人間	1																第2大臼歯 (E) 1
アカネズミ類	1	2															
ヘビ	1																椎骨 4
鳥類	1																胸片 153
小動物(骨)	1																109

種 類	頭 骨 skull		内 臓 骨 visceral skeleton										脊 椎 骨 vertebra		肩 胛 骨 shoulder girdle				その他
	齒骨 vo	前上頰骨 supro tro	前上頰骨 prem	上頰骨 max	上頰骨 pal	齒骨 den	角骨 an	方骨 qu	舌骨 hyo	前肋骨骨 preo	上肋骨骨 ope	肋骨骨間 imop	頸椎体 sub inop	尾体 abd	後頸椎骨 tem	上腕骨 cl	肩胛骨 cl	肩甲骨 sc	
クログイ属	1		8																頭部骨 1 歯 6
タイ科	1		2																第1歯槽骨 4 舌槽骨 462 歯 107
エイ目	1																		尾椎 3 椎骨 140
スズキ属	1		5		4				10										椎骨 8 歯槽骨 2 耳石 1
ハゼ科	1					1													
マハゼ	1		4			3													
コチ	1		11			1			2										
ニシン科	1								2										椎骨 702
フタ科	1																		上頰骨 (R) 5 11) 2
サッパ	1																		第1椎骨骨 25
コノシロ	1																		第1椎骨骨 23
ウナギ	1																		椎骨 123
フナ	1																		椎頭骨 1
魚骨	1																		12801
椎骨	1																		
ウロコ	1																		4

第4表

層位	1 層			層位	2 層			層位	3 層			
	種名	左	右		個体総数	種名	左		右	個体総数	種名	左
腹足綱	ダンペイキサゴ				ダンペイキサゴ			2	ダンペイキサゴ			55
	イホキサゴ			7	イホキサゴ			1	イホキサゴ			6
	カワニナ				カワニナ				カワニナ			
	フヘナトリガイ			2	フヘナトリガイ				フヘナトリガイ			33
	ヘナタリガイ				ヘナタリガイ				ヘナタリガイ			89
	カワアイガイ				カワアイガイ				カワアイガイ			36
	イホウミニナ				イホウミニナ				イホウミニナ			132
	ウミニナ				ウミニナ				ウミニナ			119
	ホソウミニナ			3	ホソウミニナ				ホソウミニナ			63
	ウミニナ科				ウミニナ科			10	ウミニナ科			20
	ホシキヌタ				ホシキヌタ				ホシキヌタ			
	ツメタガイ				ツメタガイ				ツメタガイ			26
	アカニシ				アカニシ				アカニシ			16
アラムシロ				アラムシロ			2	アラムシロ			57	
イホニシ			2	イホニシ			1	イホニシ			5	
イシマキガイ				イシマキガイ				イシマキガイ				
ムキガイ				ムキガイ				ムキガイ			1	
腹足綱	マテガイ				マテガイ				マテガイ			25
	ツノガイ				ツノガイ				ツノガイ			
斧足綱	アカガイ				アカガイ				アカガイ			
	サルホウ	5	9	14	サルホウ	83	96	179	サルホウ			
	オキシジミ	3	3	6	オキシジミ	5	5	10	オキシジミ	132	154	286
	イタヤガイ				イタヤガイ				イタヤガイ			
	ナミマシワガイ				ナミマシワガイ				ナミマシワガイ			
	マガキ	5	3	8	マガキ		3	3	マガキ			
	ヤマトシジミ				ヤマトシジミ	2	3	5	ヤマトシジミ	650	720	1370
	ハマグリ	67	70	137	ハマグリ	32	49	81	ハマグリ	7200	6950	14150
	カガミガイ				カガミガイ				カガミガイ	1	24	25
	アザリ	16	13	29	アザリ				アザリ	1787	2405	4192
	ハカガイ				ハカガイ				ハカガイ			
	シオフキガイ		1	1	シオフキガイ	3	5	8	シオフキガイ	1259	1172	2431
	ミルウイガイ				ミルウイガイ				ミルウイガイ			
ヒシメナトリガイ				ヒシメナトリガイ				ヒシメナトリガイ	170	95	265	
オオノガイ				オオノガイ				オオノガイ	10	12	22	
ハイガイ				ハイガイ				ハイガイ				
								ムシロガイ			4	
								カゴメガイ			10	
								カノガイ			11	
								ヒメクサカノガイ			2	
								ヒメミガイ			5	
								ヒメキセルガイ			22	
								キセルガイ			11	
								ヒメシラトリガイ				
								ホソホカチョシガイ			47	
								オカチヨウシガイ			133	
								ユオヘリマイマイ			51	

第4表 貝類遺体一覧表

メノウ製の石製品である。

貝類

本貝塚の貝類は6層まで確認された。しかし遺存状態からは2、3、4、5層までが判別可能な状態であった。以下は磨耗、消滅が激しく貝類の種類の判断に苦しみ状態で6以下は白い粉状を呈していた。よって貝類の種類等は不可能であった。以下識別した表をもとに概要を述べる。

貝種は腹足綱12、掘足綱1、斧足綱13種が認められた。1層では磨耗がひどく完存しているものは少なく大方が欠失していた。本層ではハマグリ、サルボウが多く見られた。

2層もやや磨耗の進行していたが総じて識別可能なものが少なくここでもサルボウ、ハマグリが主体的貝類と推察される。

3層では、本貝塚の貝類組成が明確に認められた。圧倒的多数を占めるものはハマグリで固体総数5千を超える。左右はほぼ大差なく検出されている。二番目にはアサリで個体数約2千を数えた。次にシオフキガイがみられ個体数1,200前後であった。そしてヤマトシジミが1,000個体数を数え、カキも相当の個体数が認められ本類の生育条件も存在していた。小型の貝ではヒメシラトリガイがやや多く見られた。総じて前回調査の貝類の範囲を越えるものではなかった。

腹足綱ではフトヘナタリ、イボウミナ、ウミナ系が多数を縮めていている。アカニシは非常に少なく個体数16、キサゴも同様で皆無に近い。

掘足綱ではマテガイがやや多く見られた。

生育状況と捕食されたハマグリは殻長4.3cmから殻高1cmが最も多く、次に3cm、2cmと続き斧足綱の中で圧倒的数量を誇る。腹足綱、アカニシでは殻高11cmが最高で以下10.7cmと小型のものは検出されなかった。アサリもやや大型の物が多く最高は殻長4cmを測るが大半は2cm前後。シオフキガイは殻長4.5cm、殻高1.3cmとやや大型で比較的生育状態は良い。オキシジミは殻長4.5cm、殻高1.3cmが最高。シジミは量的にやや多く見られ生育も良く大きいものは殻長3.2cm程であった。

検出された貝類からはハマグリに生育に適した素浜、やや泥気味のアサリの成育に適した海底状態が想定される。こうした環境が近隣に存在していた事が窺われる。

微小貝類

本貝層からはヒカリヒメギセルガイ、ヒメギセル、ホソオカチョウジガイ、コオオベリマイが検出された。中でもオカチョウジガイが133と卓越している。次にコオオベリマイが51と次ぐ。総じて微小貝類葉少なかった。

貝類の検出、生育状態からは、本時代の若海人は比較的恵まれた生活環境にいたことが理解される。

微小貝類は少面積の割りに多く認められた。個体数を列記すると、以下の通りである。

カゴメガイ10 ヒメミミガイ6 ヒカリキセルガイ22 ヒメギセル11
ホソオカチョウジガイ47 オカチョウジガイ133 コオオベリマイ51
カノコガイ11 ヒロクチカノコガイ5が検出された微小貝類である。

V 総 括

本調査は、再度に亘る水道管敷設工事において貝層の大半を欠失し、その貝の整理が調査の大半を占めた。層序が確認され調査が出来た貝層は調査区の1/3前後と推察される。

確認された貝層も1、2層は耕作攪乱層であり3層からが確実に埋積状態が認められた。しかしその3層も前述のとおり水道管敷設のため攪乱を受けていた。このような状態の調査であり結果は前回の調査と大差はなかが本貝塚が更に西側、北側に伸びていることが確認、把握出来たことはひとつの成果と考える。

遺物は、土器、脊椎動物遺体、貝類、装飾品等が認められた。

土器は、阿玉台式後半～加曾利E式前半が認められ前回の調査と大差は認められない。量的に非常に少なかった。貝層の一部に土器の抜き取り跡も認められた。

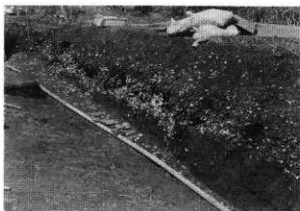
貝輪状の未製品が出土した。その他滑石製の魚状のミニチャも見とめられかなり装飾的感覚が看過される。

貝刃は比較的少ない。ハマグリが比較的小型の物が主体的であったのが一因かは不明。骨類は総体的に少ないため、個体の識別可能なものも少ない。同定作業は遺存状態が悪く確認された種別は少ない。ウナギ類がやや多くみとめられている。そのほかカニが認められている。哺乳類、鳥類、爬虫類は皆無に近かった。

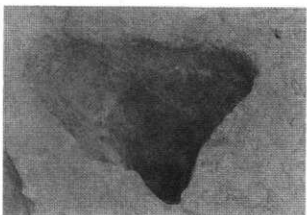
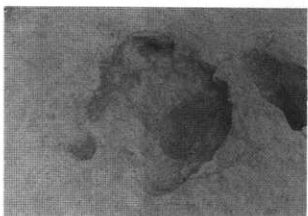
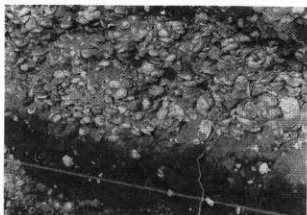
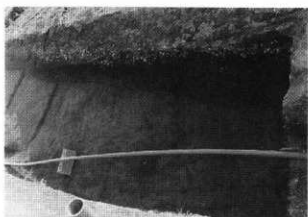
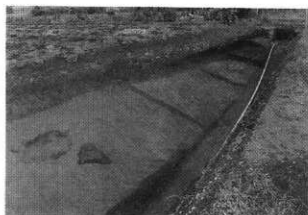
これは部分的な調査、及び前回の水道官敷設も一因していると考えられる。結果的に前回の調査の成果を越える遺物等は認められなかった。

総体的に前回の調査と比較して大差はないが、ハマグリ主体の純貝層、シジミの多量化、アカニシ、サルボウの個体数の減は本地区の特徴と推察する。またベイの多量の出土は前回の調査とかなり周辺の海、川の状態に変化が存在したとも考えられるが、余にも少面積の調査から積極的な答えは控えたい。

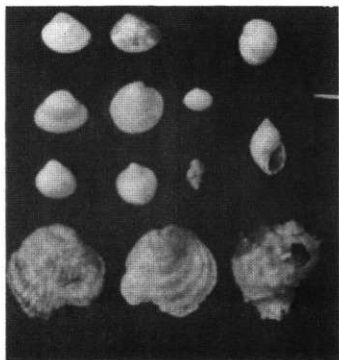
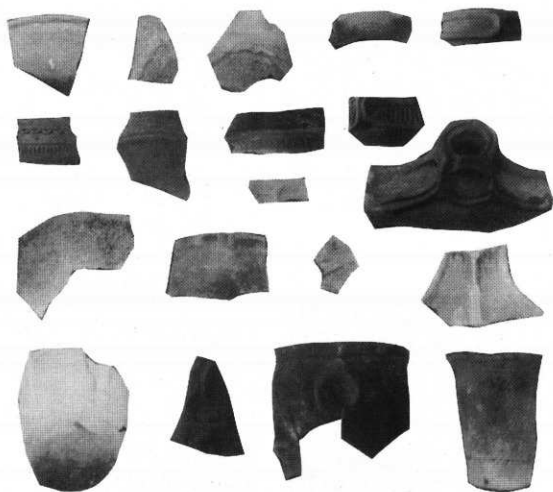
土器、脊椎動物遺体、貝類、その他装飾品等から本調査区貝塚の時期は阿玉台式後半から加曾利E式前半に形成を見たと思われる。



PL 1 調査前の状態・攪乱部分の貝層整理・東側のカットされた状態・新たな水道管敷設のトレンチの現状・調査中の遺存部貝層は極一部のみ（下左右）



P L 2 南側の台地面法面は北側に自然地形が傾斜・北側から2段に水道管敷設トレンチが存在小さな土坑が見られた。完掘状態・3層の純貝層ハマグリが多量・SK1とSK2 抜根状



P L 3 出土遺物土器・貝類・魚骨等

抄 録

ふりがな	わかうみかいづかはつくつちょうさほうこくしよ							
書 名	若海貝塚発掘調査報告書							
発行者名	玉造町教育委員会、玉造町遺跡調査会							
所在地	〒311-3511 茨城県行方郡玉造町乙 1179							
編集者名	汀 安衛							
編集機関	鹿行文化研究所							
所在地	〒311-2211 茨城県鹿嶋市青塚 718							
発行年月日	2003年3月24日							
ふりがな	ふりがな	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
若海貝塚	茨城県 行方郡 玉造町若海 435-1	08425	036	36° 7' 4"	140° 25' 38"	20020521 20020529	70 m ²	町道改良 工事に伴 う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
若海貝塚	貝塚	縄文時代 中期	土坑 2	縄文式土器 滑石製品 脊椎動物遺体				

若海貝塚発掘調査報告書

印刷 2003年3月24日

発行 2003年3月24日

編集 鹿行文化研究所

発行 玉造町遺跡調査会

玉造町教育委員会

印刷所 (株) さんゆう社印刷